

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立新田小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 89 人

② 算数 89 人

5 留意事項

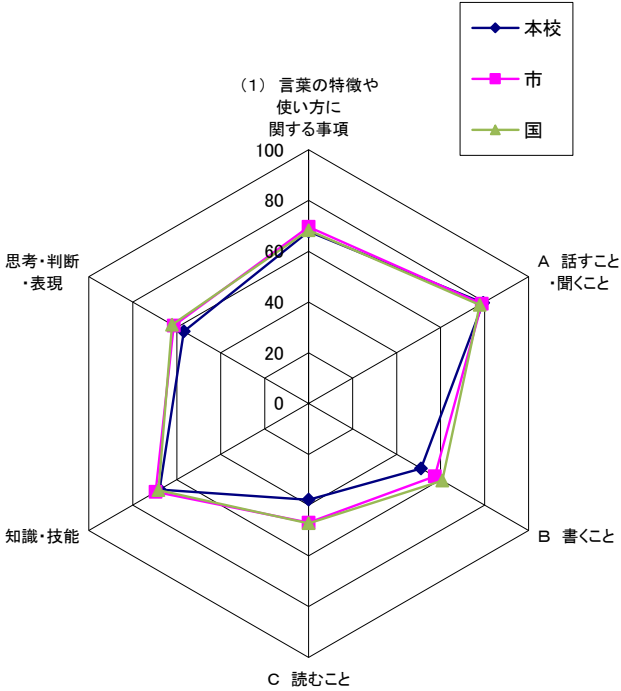
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立新田小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	67.8	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	79.3	78.7	77.8
	B 書くこと	51.1	57.3	60.7
	C 読むこと	37.9	46.9	47.2
観点	知識・技能	67.8	69.6	68.3
	思考・判断・表現	56.8	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことについての正答率は、どの問題も国や県の平均正答率より上回った。 ●文の中における主語と述語との関係を捉える問題の正答率は63.2%で、国や県の平均正答率より下回った。 ●文の中における修飾と被修飾との関係を捉える問題の正答率は44.8%で、国や県の平均正答率よりやや下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・新出漢字を学習する際は、漢字の形を捉えるだけでなく、意味を理解して使えるように短文づくりを取り入れるなど、学級全体で知識を共有できる時間を取るようになる。また、朝の学習の時間に小テストを行ったり、家庭学習で繰り返し練習したりするなど、知識の定着を図る。 ・説明文や物語文の教材を扱う際、主語と述語、修飾と被修飾の関係を捉えることを、今まで以上に意識し、学年の発達段階に応じた授業展開を工夫する。
A 話すこと・聞くこと	○資料を用いた目的を理解することについての正答率は79.3%で、国や県の平均正答率を上回った。 ○目的や意図に応じ、資料を使って話すことについての正答率は83.9%で、国や県の平均正答率をやや上回った。 ●目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることについての正答率は74.7%で、県や国の平均正答率をやや下回った。	・授業の中で、根拠をもとに考えをまとめたり、自分の意図や思いをもって表現したりする時間を十分に取るようにするとともに、それをもとに意見交換をする場を設けるようにする。 ・国語のほか、理科、社会、総合的な学習の時間などで、資料をもとに発表する際、話す内容の構成を考えて話すよう指導する。

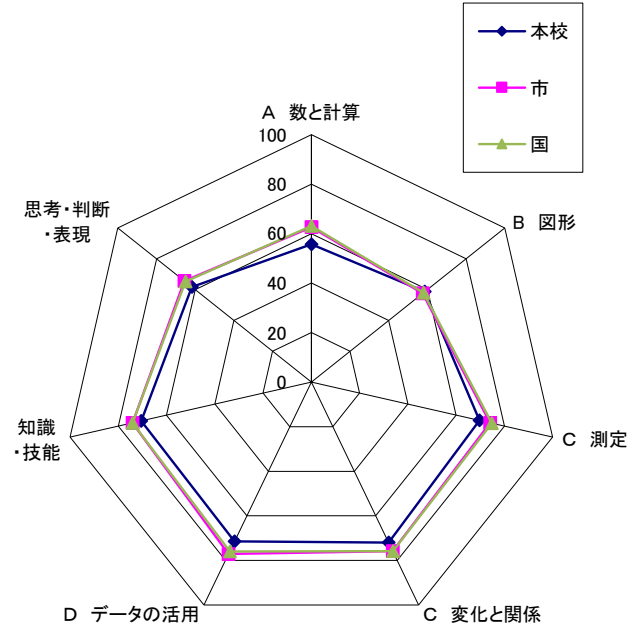
B 書くこと	●自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えることについての正答率は47.1%で、国や県の平均正答率より10ポイント以上下回った。 ●目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することについての正答率は55.2%で、国や県の平均正答率よりやや下回った。	・作文指導の際、書いたものを必ず読み直し、自分の主張が読み手に伝わるかを確認する活動を取り入れる。 ・発達段階に応じて、自力あるいは相互で推敲できるように指導する。 ・一人一台端末の機能を活用し、段落をつけたり、文章全体の構成や展開を考えたりできるよう指導していく。 ・根拠を明らかにして自分の意見をまとめる取組を、今後も継続して行い、他教科においても活用していく。 ・今回の問題は、資料にある「下書き」の文章を正しく読み取ることができれば正解できたと思われる。日頃から、文章の要旨を捉え、短文でまとめる学習を取り入れるようにする。
C 読むこと	●文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握することについての正答率は73.6%で、市の平均正答率よりやや下回った。 ●目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つけることについての正答率は21.8%で、市の平均正答率より11.3ポイント下回った。 ●目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することについての正答率は18.4%で、市の平均正答率より10.1ポイント下回った。	・指示語が指し示す事柄を捉えること、事実と考えの区別をつけること、筆者の考えが全体のどの部分に書かれているかを明確にするなど、読み取り方をより丁寧に指導する。 ・筆者の考えを、根拠となる言葉や文章、図表とを結び付け、自分なりの言葉でまとめる学習活動を取り入れる。 ・説明文の読み取りにおいては、段落ごとにまとめた要旨をもとに、文章全体の構成について自分で考える時間を十分に確保する。

宇都宮市立新田小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	55.7	62.6	63.1
	B 図形	58.6	57.5	57.9
	C 測定	69.7	74.1	74.8
	C 変化と関係	72.0	75.8	75.9
	D データの活用	71.5	77.1	76.0
観点	知識・技能	70.5	74.1	74.1
	思考・判断・表現	61.7	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○余りのある除法の商と余りをもとに、23個のボールを6個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を求める問題の正答率は87.4%で、国や県の平均正答率より4.4ポイント上回った。 ●8人に4Lのジュースを等しく分けるときの1人分のジュースの量を求める問題についての正答率は42.5%で、国や県の平均正答率より10.0ポイント以上下回った。 ●30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く問題の正答率は47.1%で、国や県の平均正答率よりやや下回った。	・わり算の商が小数になることの意味や、小数を用いた倍についての意味を、図などを用いて考えたり、説明したりする活動を取り入れるようにする。 ・「基準量を1としたとき」という言葉の意味を丁寧に指導し、比較量との関係について捉える問題に慣れるよう反復練習をする。 ・問題文に書かれている「何をもとめるのか」という文章に線を引くなど、出題趣旨をしっかりと捉えるよう指導する。 ・数の構成、かけ算やわり算の意味、小数や分数の意味など、高学年で習う計算のもととなる知識の定着を図る。
B 図形	○直角三角形の面積を求める式と答えを書くことについての正答率は55.2%で、県の平均正答率よりやや上回った。 ○二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書くことについての正答率は51.7%で、国や県の平均正答率より5ポイント以上上回った。 ●直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ問題の正答率は69.0%で、国や県の平均正答率よりやや下回った。	・既習の図形の特徴や、面積の求め方をもとに、複数の図形を組み合わせた図形の面積の求め方を考えたり、説明したりする活動を取り入れる。 ・具体物や半具体物を用いて、図形の特徴を視覚的に捉えたり、面積の求め方をより具体的に説明したりできるようにする。
C 測定	○条件に合う時刻を求めることについての正答率は94.3%で、国や県の平均正答率より5.0ポイント上回った。 ●二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述することについての正答率は46.0%で、国の平均正答率より16.5ポイント、県の平均正答率より14.7ポイント下回った。	・文章問題を解く際は、求め方を式や言葉を用いて書くように指導する。また、友達と解き方を確かめ合う時間を取り、よりよい方法はないか、考えを深めるようにする。 ・算数で使う用語を使って説明できるように指導する。

C 変化と関係	○速さが一定であることをもとに、道のりと時間の関係について考察することについての正答率は86.2%で、国や県の平均正答率と同程度である。 ○速さと道のりをもとに時間を求める式に表すことについての正答率は90.8%で、国や県の平均正答率より5.5ポイント上回った。 ●速さを求める除法の式と商の意味を理解しているかを問う問題についての正答率は39.1%で、国や県の平均正答率より14ポイント以上下回った。	・「速さ、道のり、時間」のどれかを求める際、除法または乗法になる意味について、説明ができるように指導する。 ・文章問題において立式する際は、数字だけではなく、算数で使う用語や、図などを使って説明できるように指導する。
D データの活用	○棒グラフから、数量を読み取ることについての正答率は96.6%で、国や県の平均正答率と同程度である。 ●棒グラフから、項目間の関係を読み取ることについての正答率は82.8%で、国や県の平均正答率より7ポイント下回った。 ●データを二次元の表に分類整理することについての正答率は64.4%で、国や県の平均正答率よりやや下回った。 ●帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述する問題の正答率は46.0%で、国や県の平均正答率より5ポイント以上下回った。 ●集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断する問題についての正答率は67.8%で、国や県の平均正答率より5ポイント下回った。	・項目間の関係を捉えること、データを二次元の表に分類整理することについては、反復練習をすることにより知識の定着を図る。 ・複数のデータを比較する際、問題文に書かれている条件をしっかりと捉えられるよう読解力を鍛える。 ・目的のために、どのようなデータを集めるべきかという学習活動は、他教科においても取り入れているので、どの授業においても、他教科との関連を図りながら指導していく。

宇都宮市立新田小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがある」と肯定的な回答をした児童の割合は78.5%で、国や県とほぼ同程度である。今後も、一人一人のよさを認め、褒めて伸ばし、プラスの言葉かけをすることにより自己有用感や自己肯定感がもてるようにしたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と肯定的な回答をした児童の割合は98.9%で、国や県よりやや上回っている。日常的な指導のほか、「いじめゼロ集会」を高学年児童が中心となって開催することにより、児童自身が「いじめ」について真剣に考えることができている。また、「学校に行くのは楽しい」と肯定的な回答をした児童の割合は88.6%で、国や県より上回っている。今後も引き続き、一人一人が居がいのある学級づくりを心掛ける。

○「友達と協力するのは楽しい」と肯定的な回答をした児童の割合は97.7%で、国や県よりやや上回っている。本校の児童は、協力して何かを成し遂げることの大切さや楽しさを感じながら学校生活を送っている。

●「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる」と肯定的な回答をした児童の割合は67.1%で、国や県より下回った。今後も引き続き、多様な考えがあってもいい、失敗しても大丈夫だという安心感のある学級経営をしていく。

●「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と肯定的な回答をした児童の割合は71.6%で、国や県より下回っている。また、家庭学習の時間は、平日1日当たり「1時間以上、2時間より少ない」が46.6%で、休日1日当たり「1時間より少ない」と回答した児童が30.7%である。本校では、1か月ごとに自分の学習や生活のめあてを決めて実行し、振り返るという「すくすくチャレンジカード」を実行しているが、特に、高学年は、学年に合った学習内容と時間をしっかりと意識しためあてを立てて実践できるよう指導していく。

●「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と肯定的な回答をした児童の割合は73.8%で、5年生までは69.3%であったことから、昨年度より4.5ポイント上回っている。

●「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習に生かすことができる」と肯定的な回答をした児童の割合は75.0%で、国や県より下回った。本校でも、学習の「振り返り」を書いているが、教師自身も、本時の学習内容が次の学習につながっていくことを意識し、振り返る視点をより明確にして指導していく。

○「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」と肯定的な回答をした児童の割合は81.8%で、国や県より上回っている。

○「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と肯定的な回答をした児童の割合は76.2%で、国や県を下回っている。今後も引き続き、どんなことでも自由に発言でき、認め合える学級づくりをするともに、ICT機器を活用した意見交換をするなどの工夫をしていく。

○「国語の勉強は大切だ」「国語の授業の内容はよく分かる」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と肯定的な回答をした児童の割合は約9割である。また、「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係が分かるように書いたり、表現を工夫して書いたりしている」と肯定的な回答をした児童の割合は79.6%で、国や県より上回っている。今後も、「根拠を明らかにして自分の考えをまとめる」という実践を継続していく。

●国語の授業で、「目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げたりしている」と肯定的な回答をした児童の割合は75.0%で、国や県よりやや下回っている。今後は、友達と意見交換をしたり、意見を学級全体で共有したりする時間をこれまで以上に十分にとるようにする。

○「算数の勉強が好き」と肯定的な回答をした児童の割合は67.1%で、国や県と同程度である。また、国語より4.6ポイント上回っている。

○「算数の勉強は大切だ」「算数の授業の内容はよく分かる」「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と肯定的な回答をした児童の割合は、国語と同様、約9割である。

●「全ての『言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題』において、最後まで解答を書くことと努力した」と約8割の児童が回答している一方、「解答を書くことを途中で諦めた」、「全く解答しなかった」と回答した児童もいる。今後も、児童の思考を整理するための板書とノートの取り方を継続的に指導していく。

○「英語の勉強が好き」と肯定的な回答をした児童の割合は81.8%で、国や県よりやや上回っている。また、国語より19.3ポイント、算数より14.7ポイント上回っている。5年生までに受けた英語の授業で、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができた」と肯定的な回答をした児童の割合は80.7%で、国や県よりやや上回っている。

●「学校の授業以外で、英語を使う機会があった」と回答した児童の割合は40.9%で、国や県よりやや下回っている。

○「新型コロナウィルスの感染拡大で、多くの学校が休校になっていた期間中、計画的に学習を進めることができた」と肯定的な回答をした児童の割合は67.1%で、国や県よりやや上回っている。

●新型コロナウィルスの感染拡大で、多くの学校が休校になっていた期間中、「勉強に不安を感じた」と回答した児童の割合は65.9%で、国や県より上回っている。今後、再び休校措置が行われることを見越して、オンライン授業の在り方、一人一台端末を活用した課題の出し方、教科書やノートを活用した家庭学習の在り方を考えておく。また、「学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしたか」という設問に対し、一番多かった回答が「家族に聞いた」84.1%、次に多かった回答が「自分で調べた」65.9%である。しかし、中には「分からないことをそのままにした」児童も14.8%いた。今後は、授業の中でも、分からないことを自分で調べる時間を設け、調べ学習の指導もしていく。

宇都宮市立新田小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
①望ましい学習態度 ②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ③読解力・表現力の育成 ④読書活動の推進 ⑤家庭学習の習慣化	①立腰・1分前着席・挨拶の指導 ②自分で考え、進んで課題に取り組み解決する児童の育成・学び合い高め合う授業の実践 ③漢字や語句など基礎的な知識の定着・音読指導・考えのもとになる根拠を明確にした表現の工夫 ④多読・家読の推進・読書週間の充実 ⑤「すくすくチャレンジカード」・自主学習ノートの活用	・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と肯定的な回答をした児童の割合は73.8%で、5年生の時に比べ4.5ポイント上回っている。 ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことについての正答率は、どの問題も国や県の平均正答率より上回っている。 ・家庭学習に費やす時間は「1時間以上、2時間より少ない」と回答した児童が46.6%である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語では「自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えて書く」「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける」「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する」問題の正答率が低い傾向にある。 ・算数では、求める式を、数字だけではなく、言葉や図などを使って記述する問題の正答率が低い傾向にある。また、基礎的な知識技能である計算問題につまずきが見られる児童が多い。 ・「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答をした児童の割合は71.6%で、国や県より下回っている。	・文章全体の要旨をまとめたり、構成や展開を捉えたりすることができる工夫 ・正解するまでの過程を大切にするとノート指導の工夫 ・基礎的な知識技能の定着 ・家庭学習の内容と時間の再確認と、自主学習ノートの活用	・教材文に線を引くなどして、主語と述語、修飾と被修飾の関係を捉え、それらをともに段落や場面の要旨を短文でまとめる。 ・作者や筆者の考えのもととなる語や文を見つけながら読み進める。 ・児童の思考を促す板書の工夫と、自分の考えを整理するためのノートの取り方を指導する。 ・何が分かって、何が疑問なのかなど、視点を明確にした「振り返り」を書く。 ・授業の始めや終わり、朝の学習の時間などを活用し、計算テストや既習事項の復習をする。 ・学年や発達段階に応じた内容と時間をきちんと示し、それらを参考にして自分で課題を選び、自主学習ノートを活用する。